

平成 22 年度

あいち森と緑づくり環境保全活動・環境学習

夏の自然観察会 2010年8月28日

段戸裏谷原生林にて

愛知県では有数の段戸裏谷原生林は太平洋型ブナ原生林で学術的な意義も大きい場所です。目で見て肌に触れ、臭いを嗅いで体感してもらいました。

温かい人柄の加藤博敏さんのユーモアあふれる説明で原生林のことが良くわかりました。



猛暑の夏も標高千メートルを越す
ここ段戸裏谷原生林では、緑の風
がそよぎ快適です。
原生林のもつアロマセラピーで元
気になります。



設楽町の自然観察ガイド加藤博敏さん

原生林の中を散策。森の中は明るく
気持ちがいい。

散策に疲れた体を休憩所で休めながら加藤さん
の最後のまとめの話を聞き、質疑応答の時
間。



森づくり講演会 2010年8月29日

三河安城シテイホテルにて



「クマたちが棲む森を次世代へ」と題し、実践を元に情熱的に語る。日本熊森協会会長森山まり子会長。クマは生態系の頂点に立っている動物。熊が滅びることは、生態系が貧弱でやがて人間も生きられなくなる。熊が生きる豊かな森を次世代に残そう！と荒れた山の現状と理想とする森の姿を分かりやすく話されました。



森山会長の話に興味をもち、熱心に聞き入る参加者。自分たちも何かをしなければと感銘を受ける。



挨拶をする山田理事長。

秋の植樹祭 2010年10月31日

新城市作手にて



前日まで台風の襲来で天候が心配されましたが、台風も無事通過、雨が少し残ったが苗木には最適な状態の中、80名で300本を植樹完了。植生調査に基づきアカガシ、ヤマザクラなど17種類を植え、生態系豊かな水源の森となることを願って良い汗を流しました。

木の名前や植え方の説明をする吉野知明さん

参加者の構成は多様で、まさに老若男女。植物の多様性と同じこれが健全な姿。若い人はパワフルに、シニアは慎重に、女性は心細やかに、一人ひとりが个性的に、全体としてハーモニーが奏でられる植樹祭。



NPO 森を再生する会は7年前から毎年春と秋の植樹祭を行い、累計は7590本になった。



平成 21 年度

あいち森と緑づくり環境保全活動・環境学習

2009 年 11 月 8 日

愛知県北設楽郡設楽町大字西川「水源の森」にて



設楽町水源の森入り口。
7年前ここから植樹が始まった。

秋が深まる中、自分たちで植樹した木々の成長をこの目で見ようと 70 名が観察会に参加しました。



